

大卒就職率は63.9%で2年連続アップ

「安定的な雇用に就いていない」大卒者は12.8万人！

旺文社 教育情報センター 平成24年9月

24年3月に大学を卒業した55万9千人のうち、就職者総数は35.7万人で、就職率は63.9%であることが、このほど発表された文部科学省の『平成24年度学校基本調査速報』でわかった。一方で、「安定的な雇用に就いていない」大卒者（＝「進学も就職もしていない者」＋「一時的な仕事に就いた者」＋「就職者のうち正規の職員等でない者」）は12万8千人にも上る。ここでは大学・短大の就職率の推移等について紹介する。

■就職率は2年連続アップ

24年3月の大学（学部）卒業生数は、55万9千人。このうち、就職者総数（「大学院等進学者のうち就職している者」を加えた就職者数）は35万7千人で、前年より1万7千人（5.0%）増加。就職率（就職者総数÷学部卒業生数、以下同）は、63.9%で、前年より2.3ポイントアップし、2年連続の上昇となった。なお、就職者のうち、「正規の職員でないもの」は2万2千人で、就職者総数に占める割合は6.2%となっている。（表①参照）

一方、24年3月の短大（本科）卒業生数は、6万6千人。このうち、就職者総数（「大学等への進学者のうち就職している者」を加えた就職者数）は4万7千人で、前年より1千人（2.0%）増加。就職率は、70.8%で、前年より2.6ポイントアップし、こちらも2年連続の上昇となった。（表②参照）

■大学(学部)の状況別卒業生数

(表①)

年度	卒業生数 (人)	就職者(人)		「大学院等への進学者」のうち 就職している者(人)		(再掲) 就職者総数(人)	就職率
		正規の職員等	正規の職員等で ない者	正規の職員等	正規の職員等で ない者		
	A	B	C	D	E	F=B+C+D+E	F/A
平成19	559,090	377,734	42	377,776	67.6%		
20	555,690	388,417	63	388,480	69.9%		
21	559,539	382,434	51	382,485	68.4%		
22	541,428	329,132	58	329,190	60.8%		
23	552,358	340,143	74	340,217	61.6%		
24	559,030	335,248	21,960	47	357,285	63.9%	

(注)①「大学院等への進学者」＝大学院研究科、大学学部、短大本科、大学・短大の専攻科・別科へ入学した者。また、進学しかつ就職した者を含む。

②就職者のうち「正規の職員等でない者」(H24年度より新設した項目)＝雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30～40時間の者。

■短大(本科)の状況別卒業生数

(表②)

年度	卒業生数 (人)	就職者(人)		「進学者」のうち就職している者(人)		(再掲) 就職者総数(人)	就職率
		正規の職員等	正規の職員等で ない者	正規の職員等	正規の職員等で ない者		
	A	B	C	D	E	F=B+C+D+E	F/A
平成19	92,100	64,623	0	64,623	70.2%		
20	83,900	60,413	1	60,414	72.0%		
21	78,056	54,585	2	54,587	69.9%		
22	71,394	46,722	1	46,723	65.4%		
23	66,871	45,580	7	45,587	68.2%		
24	65,682	40,216	6,290	3	46,509	70.8%	

(注)①「進学者」＝大学学部、短大本科、大学・短大の専攻科・別科へ入学した者。

②就職者のうち「正規の職員等でない者」(H24年度より新設した項目)＝雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30～40時間の者。

なお、文部科学省・厚生労働省の調査により毎年4回（10・12・2・4月）発表される「就職率」もあるが、こちらは62大学・20短大の抽出調査であり、また就職率の算出方法も「就職希望者に対する調査時点での就職者の割合」で、『学校基本調査速報』の数値とは異なっているので注意を要する。

※参考：「大学生の就職率、4年ぶり改善の93.6%！」

http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/educational_info/2012/0528_k.pdf

■「安定的な雇用に就いていない」大学生は22.9%

学部卒業後、「進学も就職もしていない者」は8万7千人、「一時的な仕事に就いた者」は2万人、「就職者のうち正規の職員等でない者」は2万2千人で、これらの合計（＝「安定的な雇用に就いていない者」）は、12万8千人。大学卒業者の22.9%を占め、高い割合となっている。なお、23年度までは、「就職者のうち正規の職員等でない者」の区分がないため、23年度までの算出方法をとると、24年度の割合は19.0%となる。（表③参照）

また、「就職も進学もしていない者」8万7千人のうち、「進学準備中の者」は4千人、「就職準備中の者」は4万9千人だった。

一方、短大（本科）卒業後に「安定的な雇用に就いていない者」は1万7千人で、短大卒業者に占める割合は25.4%で、卒業生の4人に1人となっている。（表④参照）

■大学(学部)卒者のうち「安定的な雇用に就いていない者」 (表③)

年度	卒業者数 (人)	一時的な仕事 に就いた者(人)	就職も進学も していない者(人)	就職者のうち 正規の職員等でない者 (人)	安定的な雇用に 就いていない者(人)	安定的な雇用に 就いていない者の割合
	A	B	C	D	E=B+C+D	E/A
平成19	559,090	13,287	69,296		82,583	14.8%
20	555,690	11,485	59,791		71,276	12.8%
21	559,539	12,991	67,894		80,885	14.5%
22	541,428	19,332	87,174		106,506	19.7%
23	552,358	19,107	88,007		107,114	19.4%
24	559,030	19,596	86,638		106,234	19.0%
24	559,030	19,596	86,638	21,960	128,194	22.9%

(注)①「就職も進学もしていない者」＝家事の手伝いなど就職でも、「大学院への進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」等でもないことが明確な者。
②就職者のうち「正規の職員等でない者」(H24年度より新設項目)＝雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30～40時間の者。
③「安定的な雇用に就いていない者」＝「就職者」のうち「正規の職員等でない者」+「一時的な仕事に就いた者」+「進学も就職もしていない者」。
④24年度の下段の数値は、「就職者のうち正規の職員等でない者」を加えた場合。

■短大(本科)卒者のうち「安定的な雇用に就いていない者」 (表④)

年度	卒業者数 (人)	一時的な仕事 に就いた者(人)	就職も進学も していない者(人)	就職者のうち 正規の職員等でない者 (人)	安定的な雇用に 就いていない者(人)	安定的な雇用に 就いていない者の割合
	A	B	C	D	E=B+C+D	E/A
平成19	92,100	4,285	9,452		13,737	14.9%
20	83,900	3,215	8,400		11,615	13.8%
21	78,056	3,450	9,037		12,487	16.0%
22	71,394	3,880	9,986		13,866	19.4%
23	66,871	3,208	8,642		11,850	17.7%
24	65,682	2,673	7,701		10,374	15.8%
24	65,682	2,673	7,701	6,290	16,664	25.4%

(注)①「就職も進学もしていない者」＝家事の手伝いなど就職でも、「大学等への進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」等でもないことが明確な者。
②就職者のうち「正規の職員等でない者」(H24年度より新設項目)＝雇用の期間が1年以上で期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が30～40時間の者。
③「安定的な雇用に就いていない者」＝「就職者」のうち「正規の職員等でない者」+「一時的な仕事に就いた者」+「進学も就職もしていない者」。
④24年度の下段の数値は、「就職者のうち正規の職員等でない者」を加えた場合。